EdTech 導入補助金2021

令和2年度3次補正 学びと社会の連携促進事業
（先端的教育用ソフトウェア導入実証事業）費補助金

効果報告レポート

【事業者名】
株式会社城南進学研究社
株式会社１３７

【ツール名】
デキタスCOCOOコンソーシアム

【ツールの機能分類】
学習支援・授業支援（LMS）
オプションツール
（校務支援・教職員研修等）

2022年2月

デキタス

株式会社城南進学研究社　デキタス　Ｐ２～

株式会社１３７　COCOO（コクー）　P12～

■ EdTech ツールの概要

オンライン学習教材「デキタス」とは

・城南進研グループの講師陣が監修し、
学校の勉強を確実に理解していく事を
目指して開発された、オンライン学習
教材です。１本あたり５分ほどの授業
動画と演習問題で構成されており、
基本を着実にマスターさせます。

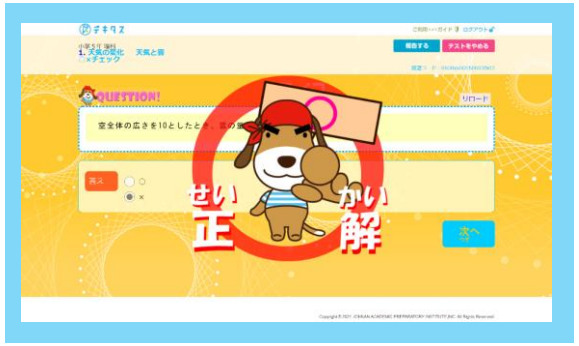
・対象は小学校１年生から中学校３年生です。
各学年の教科書に対応しています。
小学生は国語・算数・理科・社会・英語・
せいかつの各教科が受講できます。
中学生は国語・数学・理科・地理・歴史・
公民・英語の５教科７科目が受講できます。

学力と学習習慣を定着させる「演習機能」

・３レベルの演習問題で学力を確実に定着させます。
「確認問題」　…○×問題
「基本問題」　…教科書の例題レベル
「チャレンジ問題」…教科書の章末問題レベル

・さらに受講者の解答状況により出題がカスタマイズされる「キミ問」も用意。各自がつまづきやすい箇所をピンポイントで徹底演習させます。

・問題演習を続ければ続けるほど、問題を解く楽しさが身につきます。子どもたちが自ら学ぶ習慣も定着させることができます。



面倒なインストール作業は不要

・インターネット環境があれば、いつでも、
どこでも、学習ができます。

・ブラウザベースですので、端末にアプリを
インストールする作業は不要です。

・PC、タブレット、スマートフォンなど、
様々な端末で利用できます。

※推奨環境につきましてはこちらの
Webページをご覧ください。
https://dekitusbusiness.johnan.jp/dekitus/

導入効果①　どんなときでも「学びを止めない」

・いつでも、どこでも、学習ができますので、学級閉鎖、学校閉鎖などのときでも、子どもたちの自宅で学習を続けることができます。

・課題機能を利用すれば、学校にいる先生から自宅にいる子どもたちに対して問題演習する単元を指定することができます。問題プリントなどを郵送する手間がかかりません。

導入効果②　個別最適化された学びを実現

・同じクラスの児童生徒であっても到達度や理解度は異なります。

・デキタスは授業動画と、難易度別に３レベルの問題が用意されていますので、子どもたちの個々の状況に合わせて利用することができます。

■ 学校等教育機関の抱える課題

個別最適化された学びの実現を目指して

・兵庫県神戸市にある神戸山手女子中学校様では、生徒一人一台タブレットを導入し「個別最適化された学習」の実現に取り組んで来られました。

・英語と数学は２種類の他社オンライン教材を採用しておられましたが、国語・理科・社会において「個別最適化された学習」が実現できるようなオンライン教材を探しておられました。

・そこで、2021年度２学期より国語・理科・社会の指導でデキタスを実証導入して頂くことになりました。
（英語・数学についても授業時間以外などで生徒様が自主的にご利用頂けるように設定致しました。
結果として、５教科７科目の全てをご利用頂ける形になっております。）

・デキタスは各学年の教科書に対応しており、授業動画と、難易度別に３レベルの問題が用意されていますので、生徒様の個々の状況に合わせて利用することで、「個別最適化された学習」が実現できます。

例えば、国語のクラスでは

・神戸山手女子中学校様の生徒様の状況としては、国語に対して苦手意識を持っている生徒もおられるとのことですが、国語の授業に対しては比較的前向きな生徒が多くおられるとのことでした。国語の授業中に積極的な発言を行う生徒はあまり多くはおられないとのことですが、じっくりと考え物事に取り組む生徒が多いとのことでした。国語については個々の学力差が見受けられるため、先生方がきめ細かく配慮しながら指導をされておられました。

・生徒様に国語への苦手意識を持たせないよう、国語学習の導入を行いながら、基本事項を習熟させたいという意向を先生方はお持ちでした。

・国語の基本事項を習得させるために、デキタスを使用し、個々の学力に応じた学習（個別最適化）を生徒様に主体的に行わせ、生徒様が自主的に学習に取り組んでいく姿勢を養わせていくことを目標にデキタスの導入がスタート致しました。

・デキタス導入の成果を神戸山手女子中学校様主催の教育シンポジウムにてご披露頂きましたので、次項にてご紹介させて頂きます。

画像資料ご提供：神戸山手女子中学校様

■ EdTech導入補助金2021における活用事例

「個別最適化された国語の学び」の流れの例

①授業の導入として、デキタスを利用して前時の事柄について復習を行います。デキタスは学年・単元を問わず、どこでも学習できますので、振り返り（復習）・先取り（予習）が自由自在にできます。

②前時の事柄に関する問題を先生よりプリントにて出題し、生徒に解答させ提出させることで、学習の定着度を確認します。定着度の低い生徒には、休み時間などに再度デキタスで振り返るよう指示します。

③デキタスで本時の学習内容の確認を行います。デキタスの動画授業をスクリーンに映して視聴します。基本知識の解説時にはデキタスの授業動画も用いることで、例えば古文の物語の背景理解も、紙の教材よりもさせやすいとのことでした。

④デキタスの授業動画の内容を一度で理解できた生徒には○×チェックの学習を行わせます。視聴したがよく理解できなかった生徒は、iPadを用いてもう一度動画授業を視聴し、理解した上で、○×チェックの学習に進ませます。同じ教室内でも、○×チェックに進む生徒と、授業動画を見直す生徒が混在することになりますが、デキタスを利用することで理解度に応じた学習を進めることができます。

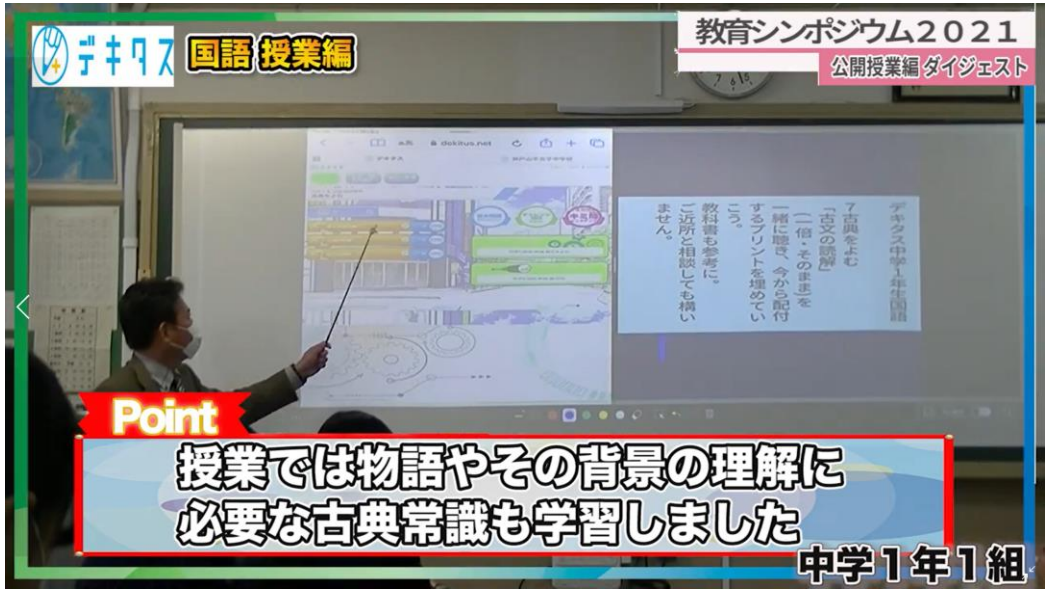
⑤生徒ごとに解くスピードが異なるため、○×チェックを終えた生徒は、先に進んで学習するように指示します。具体的には「単語」⇒「基本問題」⇒「チャレンジ問題」⇒「キミ問」の順で学習するように指示します。基本内容は全員確実に進ませ、応用内容は学習の進んでいる生徒に対して促します。ここでも、生徒一人ひとりの理解度の差に応じた演習問題に取り組ませることで、個別最適化された学びを実現していきます。

⑥途中までしかできなかった生徒に対しては、授業終了後に、応用内容に取り組むように指示します。

⑦授業時間の最後に、生徒自身が学習の不足部分と感じている点を、デキタスを使用し、復習するように促します。改めて「単語」⇒「基本問題」⇒「チャレンジ問題」⇒「キミ問」の順で学習することを確認し、なおかつ、生徒各自の補強ポイントをまとめた「キミ問」を必ず学習するよう指示します。

特に、国語の古典分野では繰り返し学習することが定着につながるとのこと。デキタスの演習問題は約５万問も収録されていますので、紙のドリル教材ではすぐに終わってしまうような生徒様でも繰り返しの演習量を増やすことができ、より定着しやすくなったとのことです。
（紙のドリルでは早く終わってしまうような生徒様にも合った演習量をご提供することができました。）

画像資料ご提供：神戸山手女子中学校様



■ 補助事業において実施したサポート内容

教員様対象の説明会を実施

・デキタス導入時に教員様対象の説明会を実施しております。（現在は直接訪問、オンラインどちらでも対応しております。）

・弊社職員より利用方法や各種機能をご説明致します。また、先生方の指導方針に沿った形での利用方法のご提案なども致します。

・ご参加頂いた先生方には、その場でデキタスをお試し頂き、「実際に動かしてみると使用方法がよくわかる」と大変ご好評を頂いております。

定期的に利用状況レポートを送付

・デキタスの運用が始まりました後に、利用状況をレポートにまとめたものを定期的にメールなどでお送り致しております。（全体利用率推移や学習時間推移など。）

・クラス担任をお持ちの先生には子どもたち個別の利用状況をお伝えすることもございます。（教科別・単元別学習状況など。）

・先生方からは子どもたちの状況や変化などが的確に把握できるとこちらも大変ご好評を頂いております。

生徒様対象の説明会も実施

・デキタス導入時に生徒様対象の説明会も実施致しました。

・弊社職員よりログイン方法や学習の進め方などをご説明致します。また、その場でデキタスでの学習を体験して頂きました。

・先生方からログイン方法などをご説明して頂く手間が省けます。生徒様も、一度体験して頂いたことで、次回以降は自分で学習を進められると大変好評でした。

児童生徒様にログインカードを無料配付

・EdTech導入補助金2021事業での初の試みと致しまして、ログインカードを作成し、導入校の全ての教員様と児童生徒様に無料配付致しました。

・カードは名刺サイズの厚紙にカラー印刷とし、片面にログインURLとQRコード、もう一方の面には使い方解説動画のURLとQRコードを印刷致しました。

・ログイン方法を詳しく説明する手間が省けたと、先生方から大変ご好評を頂きました。

■ EdTech導入補助金2021における導入実績

EdTech導入補助金2021について

ご採用学校様

全国143校

導入学年

小学校１年生から高校３年生まで

発行アカウント総数

40,763アカウント

ご採用学校等設置者様

- 東京都墨田区教育委員会様
- 神奈川県相模原市教育委員会様
- 神奈川県秦野市教育委員会様
- 静岡県教育委員会様
- 広島県福山市教育委員会様
- 奈良市教育センター様

など

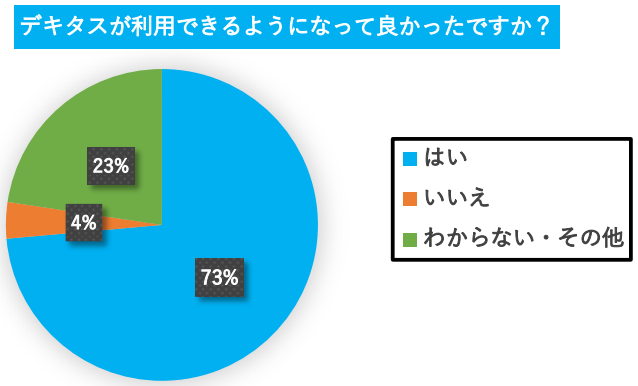
ご採用学校等教育機関様

- 横浜市立南本宿小学校様
- 横浜市立上寺尾小学校様
- 横浜市立神奈川中学校様
- 横浜市立老松中学校様
- 横浜市立東俣野特別支援学校様
- 沖縄県糸満市立真壁小学校様
- 鹿児島県鹿児島市立武小学校様
- 大阪府泉大津市立誠風中学校様
- 私立八王子実践中学校様
- 私立島田樟誠高等学校様

など

■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察

児童生徒様の73%が「デキタスが利用できるようになって良かった」と回答

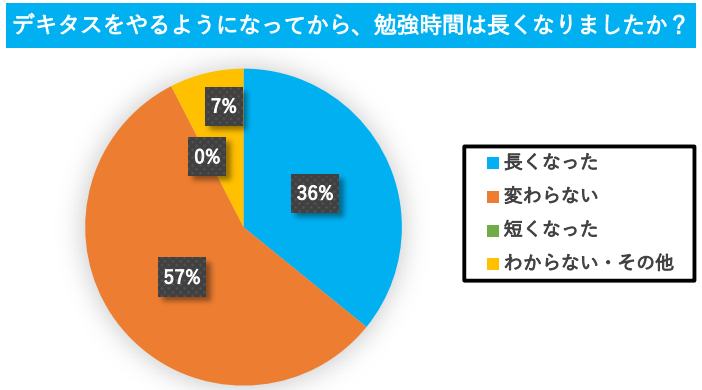


・弊社ではEdTech導入補助金2021ご採用学校様の教員様ならびに児童生徒様を対象としたWebアンケートを実施致しました。

※アンケート概要
期間　：2022年１月17日～1月31日（14日間）
対象　：EdTech採用校の全教職員様ならびに全児童生徒様
回答数：教職員様72、児童生徒様53

・児童生徒様に向けた「デキタスが利用できるようになって良かったですか？」という問いに対しては回答者の73%が「はい」と回答頂きました。

「勉強時間が長くなった」と回答した児童生徒様は36%



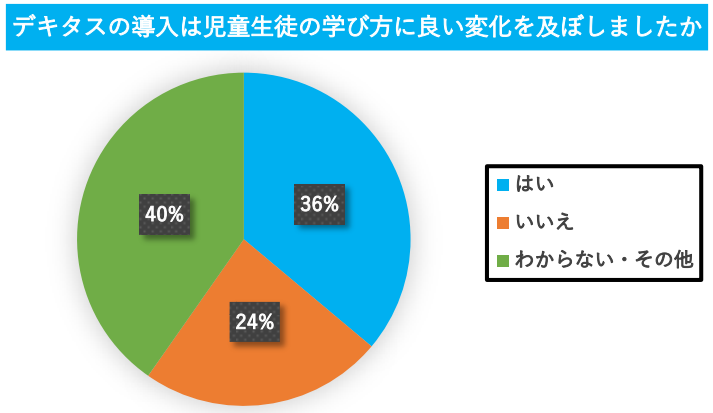
・児童生徒様に向けた「デキタスをやるようになってから、勉強時間は長くなりましたか？」という問いに対しては回答者の36%が「はい」と回答頂きました。

・しかし、回答者の57%は「変わらない」と回答頂きました。また、「短くなった」と回答した児童生徒様は0でした。

・今まで以上に勉強に取り組むようになるキッカケとして、デキタスの導入が作用した可能性があると考えられます。

■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察

36%の先生方が「児童生徒の学び方に良い変化があった」と回答



・先生方に向けた「デキタスの導入は児童生徒の学び方に良い変化を及ぼしましたか？」という問いに対して36%の先生方が「はい」と回答頂きました。

・「わからない・その他」と回答された先生方が40%いらっしゃいますが、最も多い理由は期間が短すぎて導入効果を見極めできないからということでした。

・「いいえ」と回答された先生方も24%いらっしゃいますが、EdTechツールの効果に否定的ということではなく、短期間では導入効果が実感できないという理由であると考えられます。

良い変化の内容は「児童生徒が自分から勉強に取り組むようになった」が多数を占める

・前項で「はい」と回答頂いた36%の先生方に「どのような変化があったか」を自由記述形式で伺ったところ、多くの先生方が「児童生徒が自分から勉強に取り組むようになった」と回答されました。以下、先生方の回答の一部を掲載致します。

・学習意欲が以前より高まった。
・自学自習の意識が高まった
・苦手を少しでも克服できる。
・家庭学習に積極的に取り組むようになった
・意欲的に学習できていた。
・不登校生の学習
・勉強に取り組むようになった
・学習に拒否感を持っている子どもたちが取り組みやすかった。
・勉強に積極的でない生徒が進んで取り組んだ
・能力がばらばらなクラスでは非常に使いやすいです。

・この結果は、活用事例としてご紹介した神戸山手女子中学校様にて目指した「デキタスを使用し、個々の学力に応じた学習（個別最適化）を生徒様に主体的に行わせ、生徒様が自主的に学習に取り組んでいく姿勢を養わせていくこと」が達成されつつあることを示していると思われます。

■ EdTechツールを活用した児童生徒・教員のコメント感想等

児童生徒様から寄せられたコメントの一部をご紹介致します。

・動画で説明を見れたり、問題を解けて便利だと思います。

・間違えた問題を何度も解きなおせるのがいいと思いました。

・わかりやすくべんきょうができる

・カンタンに勉強ができた楽しい

・まだ習っていない部分も予習できるので良いと思いました。

・自分が間違っていた問題などを復習できたりすることが、
自分にとってプラスになると思います。

・わからないところは動画で見れるのでわかりやすかったです

・自分一人でも勉強できると思います。

・使いやすくて動画もわかりやすかった！

・そうさも簡単で、やりたいときにすぎにできるし、授業動画もあって
復習もできるのでいっぱいやってます。

・１つ１つの解答に解説がついているので、なぜこんな答えになるのか
すぐにわかる。

・何回も問題解けるので、テスト勉強に役立ってます。

・たのしみながらべんきょうができる

・すごく分かりやすく、楽しく学習できて良かったです。
これからも使っていきたいです。

・勉強は苦手だけど、デキタスを使ってみたら楽しかった。

・苦手なところやわからないところを復習するときに使っています。

・もっと難しいと思っていたので簡単にできてビックリです

・おぼえやすい

・間違えた問題を繰り返し解けるので良いと思います。

・少しひまなときに使ってます。

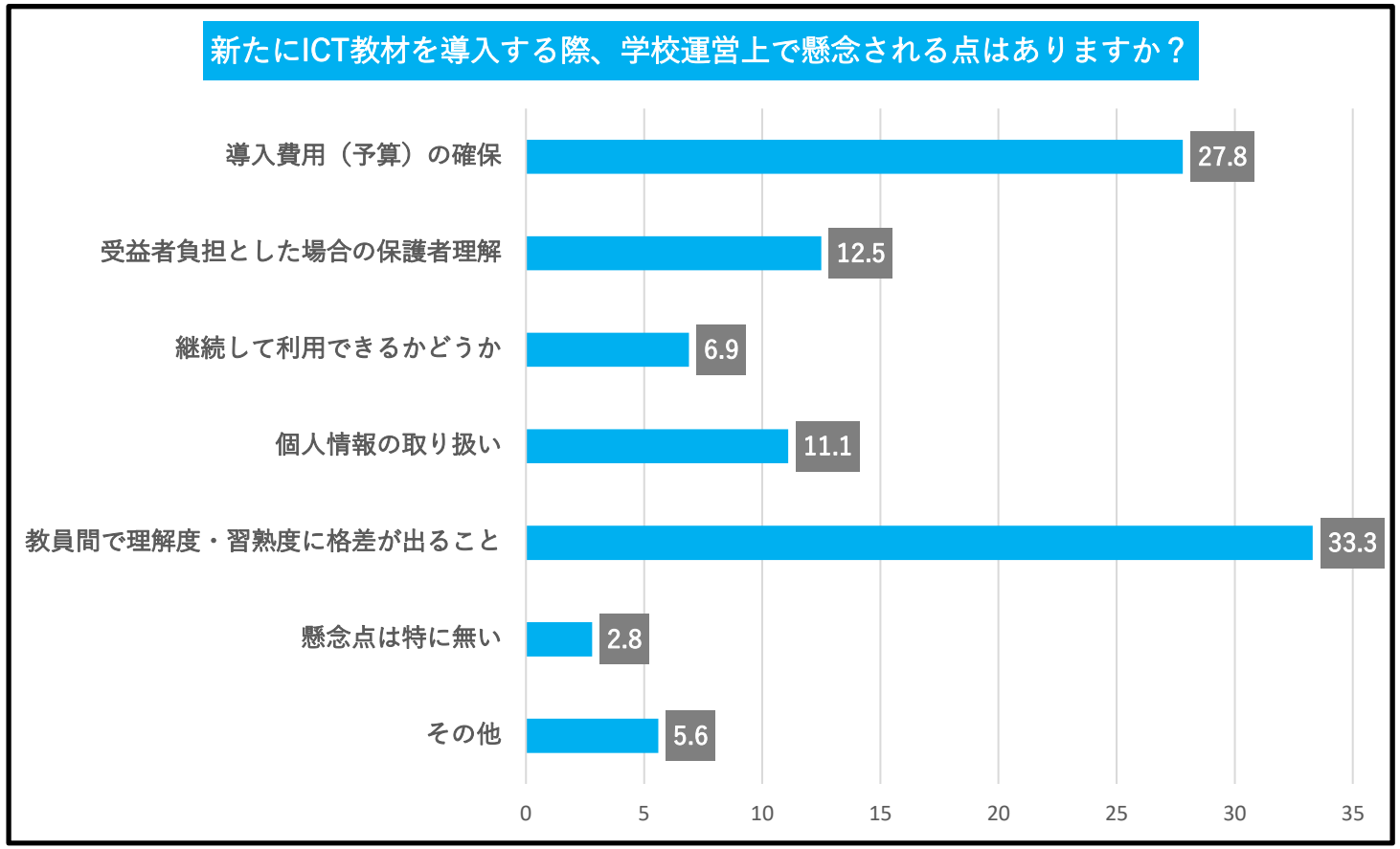
・アニメの授業になっていてとてもわかりやすいです

・機械音痴でも使いやすいです。

・動画の再生スピードが調節できるところが良いです。

■ EdTechツールの導入・運用における課題とその改善策

先生方の懸念点のトップは「教員間で理解度・習熟度に差が出ること」



・先のWebアンケートにて、先生方に向けて「新たにICT教材を導入する際、学校運営上で懸念される点は」あるかどうか伺ったところ「教員間で理解度・習熟度に差が出ること」が33.3%で最も多くなりました。

・事業者としてこの点に対する改善策としては
①導入時の説明会実施の徹底
②操作不明点をできるだけ早くに解決できるサポート窓口の整備
③まずは児童生徒様に基本問題だけやらせてみるなど、指導に少しずつ取り入れていくことなどのご提案

などが考えられます。

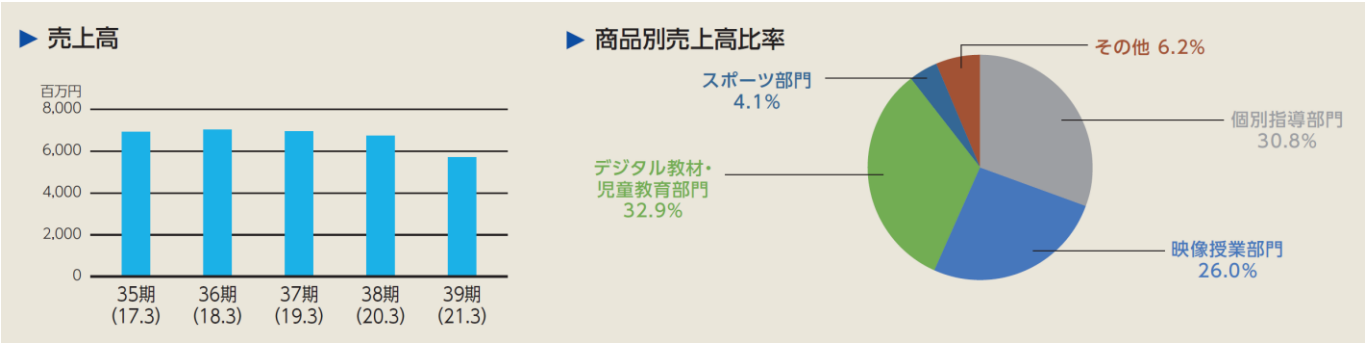
■ 会社概要

城南進研グループのご紹介

・株式会社城南進学研究社は、1961年４月、大学受験、高校補習のための総合予備校として「城南予備校」を神奈川県川崎市に設立したところから歴史がはじまります。

・「生徒第一主義」をモットーに、時代のニーズにこたえる教育の提供をし続け、多くの生徒様のサポートをし続けております。

・売上高の推移と商品別売上高比率



・オンライン学習教材「デキタス」に関する問い合わせは
株式会社城南進学研究社　教育ソリューション事業部
TEL　：044-246-5211
Email：info-csd@johnan.co.jp

■ EdTech ツールの概要

【教育DX　COCOO の特徴】

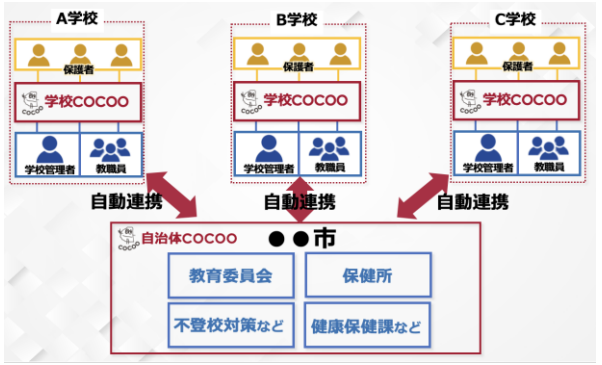
誰一人取り残さないをテーマに、教育現場の課題を解決するICTソリューションです。

① 誰一人取り残さない 情報共有の社会インフラ構築による新たな社会的・経済的価値の創出

②エビデンスに基づくアプローチの支援

※国内特許取得、国際特許PCT出願完了

学校や教育の社会課題を解決するための事業構想からシステムデザイン設計されたCOCOOは、コロナ関連欠席者の増加や体調不良などによる長期欠席理由をより詳細に自動集計し、ケアが必要な学校・児童生徒の存在に早く気づくデータ利活用の環境構築に向け、学校と自治体とのデータ自動連携やデータの可視化へと進化しています。



【主な３つの機能】

学校と家庭・先生同士の「連絡・情報共有」を　もっと便利に　もっと快適に

① 24時間欠席連絡自動受付　電話もWEBも自動集計。出席簿の自動作成/出力可能！

学校ごとに２つの専用電話番号をシステムに組み込み、朝の職員室の電話がほぼ鳴らない環境を生み出しました。

電話

学校指定の専用電話番号で24時間受付。
保護者は音声自動応答に従い、プッシュ操作で欠席登録。**（日本語・英語・中国語・スペイン語対応）**

スマホ・PC

保護者専用Webで**いつでも欠席連絡の登録可能。メモ欄付。**
保護者様専用Webサイトのカレンダーで記録の確認も簡単！

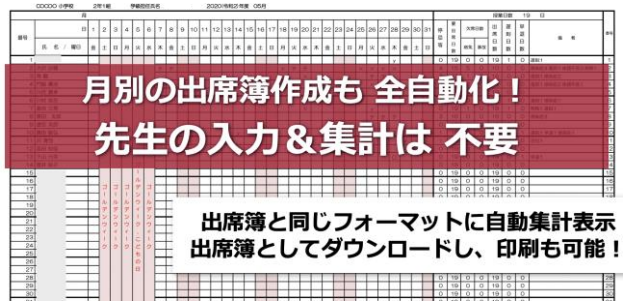
② 家庭への連絡　　保護者様ご自身で希望の受信方法に設定可能！

・お子様１名ごとに、保護者様３名までメールまたは電話への配信登録が可能。
メールからも保護者様専用Webからでもお知らせ確認ができます。

スマホやPCを利用しない保護者様には、
電話に音声情報が届きます。アンケートにプッシュ操作で回答ができます。

③ カレンダー共有　学校の予定は、家族と共有・自動更新されます！

教職員が登録した予定は**保護者様専用Webサイトのカレンダーに共有！**
保護者様は、保護者専用Webサイトから、お子様ごとの行事の確認の他、お子様ごとの欠席連絡、お知らせ確認（アンケート回答）などができます。
※行事登録や日程変更のお知らせは、学校から保護者様へ自動通知される機能(学校設定）があります。



【利用料（税抜）】

学校COCOO　初期導入費　30万円/校、　月額利用料 3万円/月（児童生徒数+教職員数 1000人未満の場合、2電話番号＋電話通信費込）

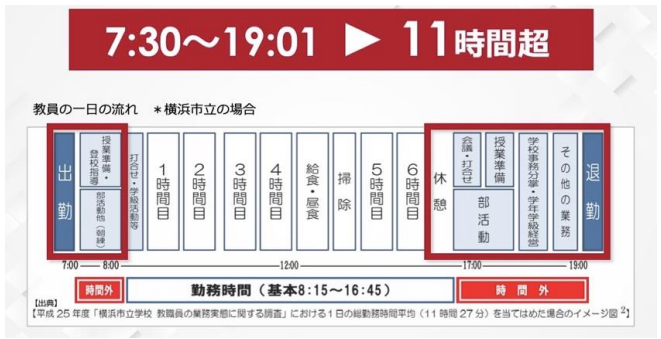
※自治体様にて全校導入の場合、別途ご相談対応いたします。

■ 学校等教育機関の抱える課題

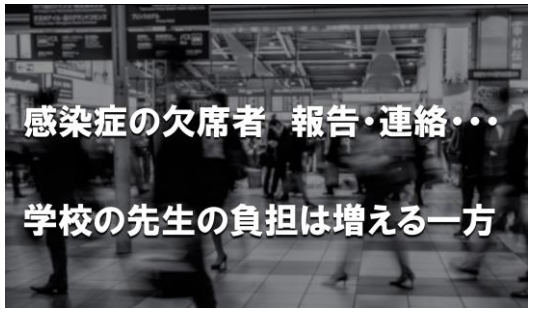
【導入先の学校等教育機関や教職員が抱える課題】

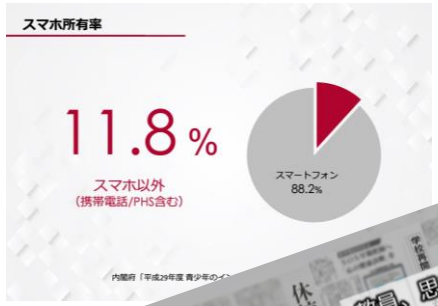
1. 先生の長時間労働
2. 情報共有の非効率・不確実性
3. 学校に行きにくくなっている児童生徒の増加

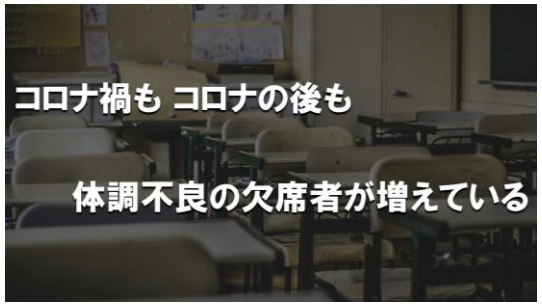
※不登校または不登校傾向児童の増加　推計約43万人（全体の13.3%）
（日本財団「不登校傾向にある子供の実態報告書」）



【COCOOの強みによって解決・改善したい課題】





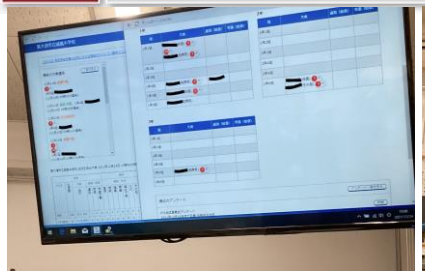


■ EdTech導入補助金2021における活用事例

1 先生の長時間労働

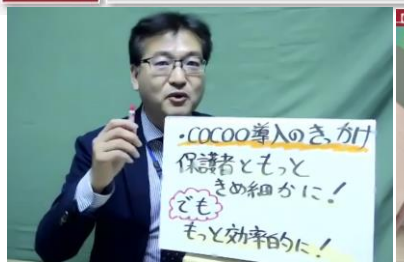
●**お知らせ配信に添付ファイル**をつけて、**学級通信・学校だよりなど保護者へのお知らせをCOCOOで配信した。昼休みや放課後に印刷対応に追われることがなくなった。**(小学校　校長)
●コロナの影響で朝の電話が大変だったが、**欠席連絡をCOCOOが全自動で受け付けて**くれるので、**朝の職員室の欠席電話がほぼ鳴らなくなった。**(小学校　副校長)
●**コロナの影響で保護者の引き取りを行う際に、COCOOのお知らせ配信をした。保護者の開封状況がわかる**ので、**全員の保護者へ電話をせずに済んだ。**おかげで**下校時刻までに全員の引き取りが終えられた。**（小学校　一般教諭）
●**欠席者への連絡、学校からのお便り、学校行事や学校評価等のアンケート、部活動の連絡等に活用**している。**特にコロナに関する情報提供、教員間での欠席者の把握等で役に立っている。**(中学校　校長)
●**学校評価アンケート・行事等の連絡に活用**している。**アンケートをつけると回答結果も自動集計**してくれるので、回答を集めて集計する手間がなくなった。（小学校　副校長）

2 情報共有の非効率・不確実性



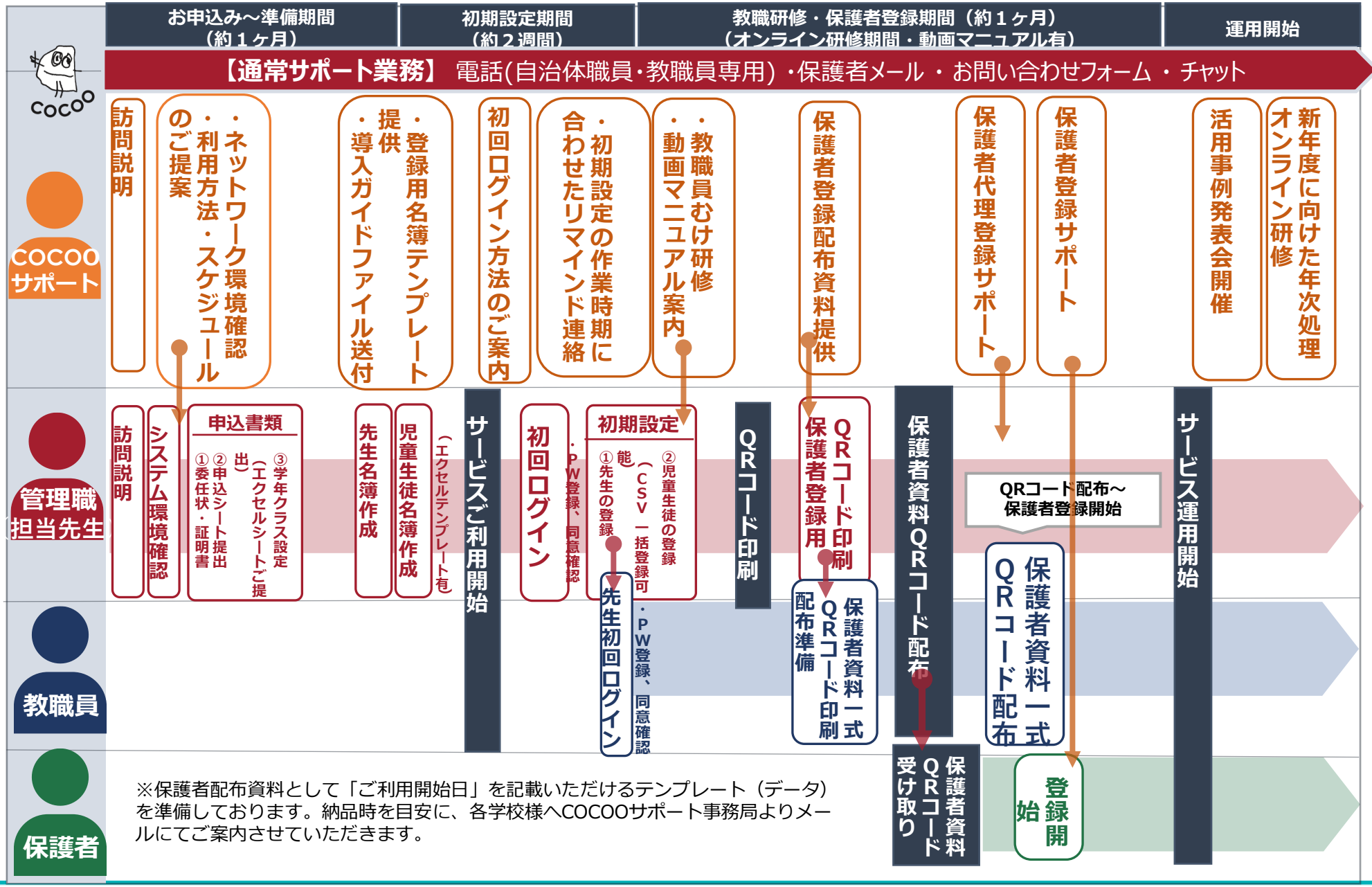
●**職員室入ってすぐの所に、COCOOを毎朝映し出しておき、出勤したらすぐに欠席状況を誰でも確認できるようにしている。**これまで**ホワイトボードに毎朝書き出す手間がなくなった。**（小学校　校長）
●職員室のパソコンだけでなく、**クロームブックから各教員が教室でも欠席状況を確認できるようになり、情報の抜け・漏れが少なくなった。**(中学校　副校長)
●**遅刻・早退の生徒の給食のあるなしが一目で分かり、発熱の人数も一目で確認できるので、教職員全体で１つの画面を共有できるのは、養護・栄養士ともにありがたい。**(小学校 副校長)
●保護者が入力する欠席連絡ではメモがつけられるので、そのコメントにより、**欠席理由だけでない状況が確認しやすくなった。**(中学校　一般教諭)
●**特別支援学校に併設する医療福祉センターで親元を離れて生活している児童生徒において、保護者だけでなく施設の方も同じように欠席連絡・お知らせ配信を利用している。**(特別支援 一般教諭)

3 学校に行きにくくなっている児童生徒の増加



●**学校に通いにくい生徒への連絡は、学校から毎日電話をすると親にもプレッシャーがかかってしまう**ので、授業や持ち物などの**事務連絡はCOCOOで送っている。それにより、精神的負担が軽減されている。**（小学校　校長）
●**個人の保護者宛にもお知らせを送っている。不登校の家庭からも毎回保護者からの意思表明を受け取れるようになったことは、画期的でした。**(中学校　副校長)
● PCR検査等を受診した場合の学校への連絡はCOCOOを活用してくださいと、**お知らせ配信で案内メールを送っている。感染症の第１報が休日でも入るので、事前の対応がしやすくなった。コロナの影響に伴い、体調不良などによる欠席者が増えている中、コロナ関連で情報が入ることがとにかくプラス**(中学校 副校長)

■ 補助事業において実施したサポート内容



※保護者配布資料として「ご利用開始日」を記載いただけるテンプレート（データ）を準備しております。納品時を目安に、各学校様へCOCOOサポート事務局よりメールにてご案内させていただきます。

【COCOOサポート窓口】

①教職員専用 電話問合せ
コールセンター
TEL 050-＊＊＊＊-＊＊＊＊
営業時間　平日9:00 – 17:00

②サポート事務局宛 メール
cocoo.support@137.co.jp

③お問合せフォーム

お問合せ

④チャットで質問

チャットで質問

<ご注意>
なりすまし等のリスク抑止のため、保護者様はお電話によるお問合せはご利用いただけません。保護者様は、メール、お問合せフォーム、チャットで質問をご利用ください。

■ 補助事業において実施したサポート内容

【2021年度 導入校へのCOCOOサポートの一例】

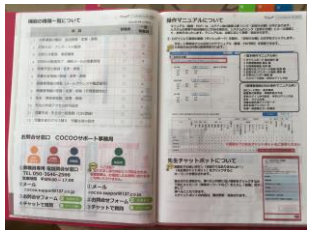
お申込み・準備期間 ＞ 初期設定・研修期間 ＞ 保護者登録期間 ＞ 運用開始

COCOOの通年サポート： ヘルプデスク電話 (自治体職員・学校の教職員限定) ・ メール ・ お問い合わせフォーム ・ チャットボット

COCOO サポート

サービス申込み

・導入運用スケジュール策定
・自治体/学校 説明訪問
・導入ガイドファイル送付(1校1冊)
・COCOO登録用名簿テンプレート送付



サービスご利用開始

・教職員様向け、使い方研修
（オンライン又は訪問対応）
・動画マニュアルのご提供
・保護者様向け資料のご提供
(ひらがなルビ付、多言語版あり)

保護者登録（保護者説明会）

・保護者様向け資料のご提供
(ひらがなルビ付、多言語版あり)

サービス運用開始

・活用事例発表会開催(2回)によるナレッジ共有
・年次更新研修開催（計６回）

【活用事例発表会開催】墨田区教育委員会事務局　楢原様

教職員

【自治体&学校教職員対象研修開催】（訪問または オンライン）

・COCOOサポート事務局による
保護者情報代理登録サポート

・電話によるヒヤリング、活用事例のご紹介
【次年度に向けたオンライン研修会 計６回開催】

保護者

・COCOOサポート事務局による
保護者登録サポート

・COCOOサポート事務局による　保護者お問合せ対応

■ EdTech導入補助金2021における導入実績

【新規導入学校 アカウント数】 全国143アカウント（11自治体）児童生徒数 37,877名、教職員数　3,808名

東京都墨田区教育委員会 小中学校 全校35校、静岡県教育委員会　特別支援学校 全25校、大阪府泉大津市立誠風中学校、福山市立城南中学校、相模原市二本松小学校、私立島田樟誠高等学校　他多数

自治体名	小学校（アカウント）	中学校（アカウント）	高等学校（アカウント）	特別支援学校（アカウント）	教育支援教室（アカウント）	導入数 合計（アカウント）	児童生徒数	教職員数
墨田区教育委員会 小中全校	25	10				35	14,259	905
静岡県教育委員会 特別支援学校全校		1	1	58		60	2,859	1,550
横浜市	3	3	1			7	2,073	206
広島県福山市	2	2				4	2,438	164
秦野市教育委員会	1	1			1	3	1,156	119
相模原市	1					1	496	30
大阪府泉大津市		1				1	732	30
私学		2	1			3	942	132
その他	19	10				29	12,922	672
総計	51	29	2	60	1	143	37,877	3,808

【導入自治体（学校）の次年度に向けた現場のお声】

●A自治体：2021年度、EdTech活用し小中学校全校(35校)へ導入。学校並びに保護者からの評価も高い。NHKをはじめ各種メディアにも取り上げられ、教職員の意識も高まった。次年度、全校継続利用、合わせて新たな自治体COCOO（全校のデータ自動連携と統計データの可視化）の導入も準備を進めていく。

● B市 EdTech活用パイロットテスト1校導入、効果検証中から評価高く、導入によるコスト削減も大きかった。COCOOはなくてはならない、手放せないシステムとして教育委員会へ学校から報告。他の学校にも事例紹介として発表した。教育委員会としては、次年度小中全校に、どのようなツールが良いかを精査して決めていきたいと考えているが、COCOOの良さは、実装検証した学校からも高い評価の報告が届いている。

● C市：NHKニュースを見た保護者や複数の先生から、COCOOの説明を実際に聞きたいと教育委員会へ連絡が入り、訪問説明を実施したところ
2022年度、ぜひ小中全校へ試行導入したい。EdTech補助金2022の公募概要が出たら、教えて欲しい。

● D市：墨田区全校導入をニュースで見た。学校に問い合わせをしたところ、とても良いシステムだと聞き、小中全校導入を検討したいとのお問合せあり。まずは、導入に向けてテスト検証をしたい。次年度の補助金情報知りたい。

■ EdTech導入補助金2021における導入実績

【主な学校ごとの登録者数、欠席連絡自動集計数の一例】

全国11自治体143校アカウント（児童生徒数 **37,877**名）のうち、主な学校での利用状況の抜粋

学校名	児童生徒数(人)	欠席連絡(件)	遅刻連絡(件)	早退連絡(件)	登校連絡(件)	下校連絡(件)	欠席連絡総計(件)
墨田区A中学校	444	1363	503	50	2	2	1920
墨田区B中学校	658	960	391	78	4	2	1435
墨田区C小学校	510	555	242	30	29	6	862
墨田区D小学校	549	622	198	27	2	0	849
静岡県立E高等学校	138	940	375	172	1	0	1488
静岡県F特別支援学校	318	214	71	14	17	0	316
静岡県G特別支援学校	180	157	42	9	22	5	235
広島県H小学校	715	758	214	14	2	6	994
広島県I中学校	729	2641	724	141	130	2	3638
大阪府J中学校	732	2056	637	108	12	4	2817
神奈川県K小学校	411	679	159	61	11	9	919
神奈川県L小学校	496	746	97	51	25	8	927
私学M高等学校	823	966	211	40	4	1	1222

■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察

【EdTech ツールによる活用効果について】

課題１：先生の長時間労働

●導入効果１：教職員の業務負担を大幅削減

・コロナ禍、分散登校などで生徒の出欠席状況の管理が複雑化するも、感染症関連の欠席状況や検温/健康観察アンケートの自動集計。

・個別最適な より良い学びの未来づくりのサポートに、教職員の働き方改革も同時並行で実装。

・特別支援学校特有の欠席連絡、地方のスクールバス活用などによる登下校方法の変更連絡も自動集計。

・保護者(長期欠席児童・視覚・聴覚障害保護者を含め)利便性向上と**心的負担の軽減**につながった。

・プリントの印刷業務/アンケートの集計作業に追われていた時間を、授業の準備や生徒との時間に当てられるようになった。

●副次的効果：多忙な朝の職員室に電話が鳴らない環境を提供し、朝の授業準備に集中できる様になった。

課題2：情報共有の非効率・不確実性

●導入効果2：学校と保護者、教育委員会や施設などとも情報共有が実現

・全ての生徒の欠席連絡を、各教員の端末から職員室だけでなく**教室でも確認できる**環境を提供。

・担任の生徒だけでなく、**養護教諭・栄養士を含めた全教職員**が同じ情報を共有できることで、**学校全体**でケアが必要な生徒を把握・対策を共有できるようになった。

・特別支援学校など親元から離れ施設などで生活している児童生徒に対しては、学校と施設、保護者との情報共有にCOCOOを使ってリアルタイムな情報共有ができるようになった。

・土日や学校外からも同じ機能を活用できる環境により、**休校時/災害時/出張先**からもいつでも情報共有が可能になった。
・電話やプリント配布という、時間やモノに縛られていた連絡方法から、学校/保護者ともにそれぞれ自由なタイミングでの情報共有が可能になった。**学校からの情報が保護者の手元で一元化**されるメリットも享受できた。

課題3：学校に行きにくくなっている児童生徒の増加

●導入効果3：欠席状況の可視化によりケアが必要な生徒・保護者への連絡が充実

・長期欠席者の保護者は電話・プリント配布以外の手段としてデジタル配信が加わり、ストレスフリーに細やかな連絡が可能。

・個別最適な より良い学びの未来づくりのサポートに、教職員の働き方改革も同時並行で実装。

・毎朝、学校へ欠席連絡する必要がある長期欠席の生徒・保護者だけでなく、**先生にとっても精神的負担軽減に繋がり、家庭や教室の雰囲気が穏やかになったこともあり、学校に行ける様になった生徒があらわれた。**

・月別/曜日別、行事の前後の欠席者数、感染症による欠席者数など、データを蓄積することで推移や傾向を把握し、個別最適な支援をしていけるように、学校全体で取り組めるような環境に繋がっている。

・コロナの影響により、休校や自宅学習の際も、学校と家庭の双方向の連絡が取りやすい環境になったので、保護者からは安心感が高まったと高評価をいただいている。

保護者登録 言語別（人）	保護者登録者数	日本語	英語	スペイン語	中国語
墨田区立小学校25校	9433	9349	38	1	45
墨田区立中学校10校	3848	3789	31	0	28
総　計	13281	13138	69	1	73

欠席連絡　受信数（件数）	生徒数	欠席連絡合計	電話利用	電話利用率
墨田区立小学校25校	10441	8306	279	4.7%
墨田区立中学校10校	3978	8336	743	8.1%
総　計	14419	16642	1022	6.4%

●東京都墨田区様 小中全校35校
（児童生徒数計 約14,250人、教職員数 約905人）
2021年10～12月（3ヶ月）集計データ

・生徒数(14419人)に対し、多言語で登録している保護者が143人。日本語以外の保護者様にも活用いただけた。
・欠席連絡総数(16642件)のうち、6.4%が電話で欠席連絡をしていた。固定電話などの利用者を取り残さない環境を提供。

●東京都墨田区様 小中全校35校導入
（児童生徒数計 約14,250人、教職員数 約905人）
墨田区35校 10～12月（3ヶ月）集計

欠席連絡 集計時間

約17,300件× 3 分(仮定)
=865時間

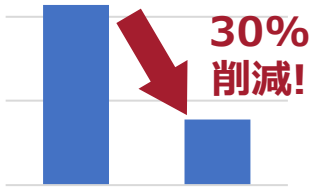
欠席連絡　受信数（時間）

※先生が欠席電話の受電対応から欠席集計までを1件3分と仮定した場合

●導入校のPTA会長様へのインタビュー

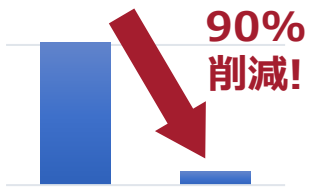
●相模原市立二本松小学校様（児童数 約500人）昨年比 **大幅コスト削減！**

コピー用紙代
（9月～12月分の合計）



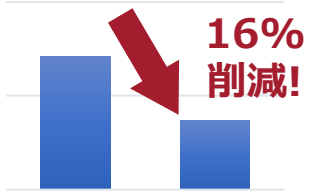
令和２年度　令和３年度

インク代
（9月～12月分の合計）



令和２年度　令和３年度

電話料金
（9月～11月分の合計）



令和２年度　令和３年度

■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察

【教育DX COCOOが目指していること】

誰一人取り残さない 人間中心設計のシステムデザインによる
デジタル社会に向けた より良い未来の教育環境づくり

①誰一人取り残さない　教育DX による新たな価値の創出

教職員の業務負担軽減とコスト削減、さらには誰一人取り残さない人間中心設計のシステムデザインによる学校と家庭の連絡・情報共有。そして利便性の向上により生み出された時間や心の余裕などから、個別最適な「豊かな学び」と「健全な育成環境」に繋げていく。

②デジタル社会における官民連携によるデータ利活用モデルの提案

教育DXが生み出すデータの利活用を通し、新たな社会的・経済的価値を創出する。教職員の業務負担軽減にとどまらず、データ利活用＝エビデンスに基づいたより良い教育環境の構築と、個別最適な育成やケアの好事例を官民連携で共につくり、多くの自治体・学校へ共有していきたい。

教育にエビデンス（科学的根拠）のあるアプローチへ

【EdTech導入補助金2021活用による成果の分析と考察】

●2021年度のEdTech補助金活用の申込は、**全国143アカウント（11自治体、登録児童生徒数 37,877名、教職員数 3,808名）に導入。昨年度の73校から約２倍に増加した。**

●お申込みから導入、先生や保護者登録を含めた運用開始までの約1～2ヶ月間、今回、**小中学校全校35校に導入した墨田区教育委員会とCOCOOサポート事務局との協力体制、導入支援に学校現場や保護者からも高い評価**をいただいた。この**導入から運用開始に向けたサポートのノウハウは、次年度に活かせる実践的な学びとなった。**

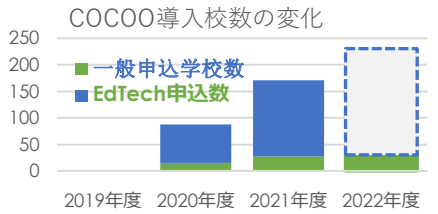
●教育DX COCOOは、**誰一人取り残さない**をテーマに、教育現場の**「課題解決」と「未来創造」**を兼ね備えたWEBサービスとして、コロナ禍でも**学校と保護者・先生同士の情報共有の利便性を高め、先生の業務負担軽減により生徒と向き合う時間が増加。**学校実施の保護者アンケートも高評価。
学校の電話通信費、プリント印刷**コスト削減の成果が数字としても出ている。**

●新たなDXが生み出す価値を体感する学校（先生や保護者）を増やすことができ、教職員や教育委員会の方々からのアンケートでも高い評価をいただくことができた。次年度の有償継続利用の学校や自治体は、約８割強を見込んでいる。

●EdTech補助金活用の**パイロットテスト校１校で実証検証後、学校現場での高い評価から、全校導入に向けて次年度のEdTech補助金活用の検討をしたいとの自治体からのお問合せが入っている。**

【EdTech補助金による COCOO導入校の変化】

2022年度向けお問合せ　説明学校(見込み含む)



自治体の教育事業に 新規導入予算は難しいの声
教育DXの新規試行導入に補助金は必要！

● EdTech補助金事業の本質と次年度への期待：
イノベーションの起こりにくい教育業界の課題は、ベンチャーの参入障壁の高さも要因の１つ。
EdTech導入補助金事業により、大企業とベンチャーがコンソーシアムを組み、教育DX(ICT技術による新たな価値提供)が生まれ始めた。

●教育改革は、未来の国づくり。 パソコン(機械)を使って入力作業することや、お便りをメールに変えて配信などの教育の**デジタル化というよりも、COCOOは、デジタル・トランスフォーメーション（DX）＝あらゆる人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる、誰一人取り残さない事業構想からのシステムデザイン設計、実装を通しながら改良改善を進め、新たな社会的・経済的価値を生み出すシステムサービスを提供することができた。**

●教職員の業務負担を軽減し、心身のゆとりある学びの環境づくりと、学校と家庭の信頼関係の再構築が大切な時代。
学びと健全な育成環境には、教職員/保護者、そして生徒自身の心身の健康が欠かせない。 誰一人取り残さない 教育の社会インフラを目指す教育DXを通し、より良い学びの環境づくりに向けた新たな価値提供へと、技術の進化とICTシステムツールのデザイン設計には、**ユニバーサルデザインが必要**と痛感した。

●学校と家庭、先生同士のデジタル情報格差の課題解決に向け、**スマホやタブレット、PCなどのデバイス限定されることなく、インターネットが利用できない家庭への配慮**、また、**言語や視覚・聴覚障害の壁を超えた情報共有を目指し、COCOOは教育DXとして「誰一人取り残さない 良い学びの未来づくりの情報インフラデザイン」と、事業構想からのシステムデザイン設計＆アジャイル開発で、より良い学びの未来をデザインしていきたい。**

■ EdTechツールを活用した児童生徒・教員のコメント感想等

【泉大津市立誠風中学校様】

・朝の**欠席電話が少なく**なった。**朝の職員室が静かになって心にゆとりが生まれた感じがする。**
・いままで大量に積まれた欠席連絡電話のメモ用紙がほとんど無くなりました。**改革**でした。
・全職員が当たり前のように**毎朝出席を確認**する習慣がついてます。
・欠席・遅刻・早退について、**他学級の教員も情報共有できる**のがとても良い。
・パイロットテスト校としての評価や効果が大変良かったことから、泉大津市教育委員会では、次年度全校導入に向けて検討を始めている。

【墨田区教育委員会様】※小中全校（35校）導入

単なるアプリではなく、COCOOを「教育DX」の１つとして捉えています。

自治体と学校のデータ連携へと発展しているので、今後も**期待しています。**

【相模原市立二本松小学校様】

・市民サービス、**保護者の利便性の向上**として捉えている。

・時間に余裕のない小学校こそ、COOCOを使ってプリント印刷・配布をお知らせ配信に置き換えることで、**子どもに時間が使える**ようになった。

・**コロナ**が流行ってから、**朝は電話２回線とも鳴りっぱなしで大変だった**が、**COCOOでとても楽**になりました。

・**大きなモニター**に映し出しておくことで、**出勤してすぐ画面で欠席状況が確認**できるようになった。

・保護者は、学校からの**情報がスマホに一元化**でき、**いつでもどこでもお知らせを確認できる**ようになった。

・**「COCOOを使って利便性が上がっている」**と、 **PTA会長さんがレポートで発表**していた。

■ EdTechツールを活用した児童生徒・教員のコメント感想等

【静岡県教育委員会様】 県内特別支援学校全校（25校）導入

●教職員様より

・**特別支援学校**では、**親元から離れ併設する施設などで生活している児童生徒も多い。**そのため、**学校と施設、保護者との情報共有にCOCOOを使ってリアルタイムに情報共有できるようになった。**

・朝、**欠席遅刻連絡の電話がほとんど掛かってこない**ため、**始業前の時間が有効に使える。**

・利用の仕方に慣れてきて、スムーズに活用することができるようになってきた。学校では、いろいろな分掌課が業務内容に合わせて、お知らせ機能を使うようになり、**ペーパーレスの意識が高まって**きている。

・**個別生徒（保護者）にお知らせが送れる**ので、欠席した生徒に明日の連絡などを送れる。

・**毎朝の電話応対回数が劇的に減少**し、出勤後の朝の時間に余裕ができた。

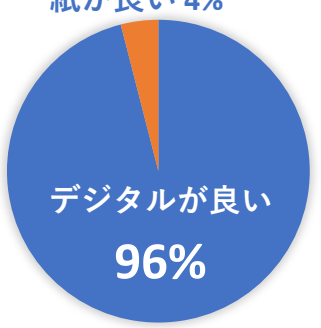
・9月以降、ワクチン接種により、**生徒の欠席・遅刻・早退が通常の５倍以上**ある日もある。 すべてを電話連絡で受けていたら業務に大きな影響があったと考えられる。**「コクーがあってよかった」と感じている教員がほとんど**である。

・保護者への連絡の際に、**コクーのお知らせを使用する意識が高まってきた。**

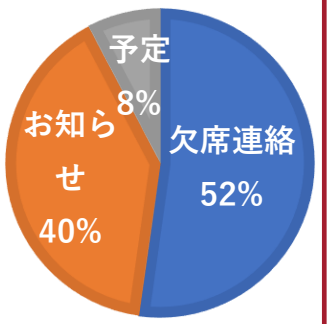
静岡県教育委員会様による　保護者様へのアンケート結果(一部抜粋)

COCOOの評価

どちらが便利か



便利な機能



●保護者様へのアンケート結果

・COCOOの評価:**「よい」**が**98%**

・**時間を選ばず学校へ連絡できるのでよい。**

＜アンケート詳細＞
・実施期間：2021年10月８日～15日
・実施対象校：COCOO導入校３校
・回答者(保護者)総数：862人

【EdTech ツールの導入・運用における課題】

【導入・運用における課題】

1. コロナ禍での業務負荷が多い時期と重なり、担当の教員に負担があった。
2. 出席簿の形式が違うため、そのまま使えない。今後、欠席状況と出席簿が連携されると、業務削減になるためありがたい。
3. ログイン端末のネットワーク環境や学内ルールの整備が追いついていない。

・早くシステムになれてさらなる効率化、負担軽減を目指したい。
・職員室のPCがメインの端末になっている点。開くのに手間がかかって、面倒である。

・タブレットからすぐにログインできて、各担任がいつでも欠席連絡を確認できるようにしてほしい。

・iPadで出欠をチェックするのには、学内での二重承認が必要であり、現実的に使えない。Wi-fi の環境設定を教職員が使いやすいように改善希望。

【今後、解決するための改善策】

1.墨田区では、教職員にとって使いやすい教職員用メールアドレス付与と学校内におけるネットワーク環境の改善など、システム導入後に自治体として迅速な改善適応へと進化を進めた。コロナ禍における導入支援として、教育委員会とサポート事務局との情報共有、全校導入スケジュールや導入支援連携をした。

また、ZOOMなどを活用したオンライン研修環境が整っていない学校があったため、教育委員会からオンラインMTG可能なノートPCを学校へ貸し出してもらい、オンライン研修を実施した。サポート専用電話番号の周知の他、ログイン後の画面に先生専用のチャットボットを開設した。

2. COCOO自動作成の出席簿を出力版を、特別支援学校全校導入した静岡県では公簿とする方向で検討中。

3. 学校現場のネットワーク環境に制限がある中での利用に際し、全職員が一人づつ、同一時間帯にPCへ集中してアクセスすることを避けるためにも職員室の大型ディスプレー画面に繋ぎ、共有活用した。

会社概要

株式会社１３７

代表取締役社長
黒田 千佳

設立
2014年1月（2014年11月より営業開始）

URL
https://www.137.co.jp

主な事業内容

社会課題解決に向けた事業構想(プロジェクトデザイン)、新規事業企画開発
Webコンテンツの企画開発、運営販売に関する事業
人材育成・教育に関する事業

本社　東京都港区南青山4-17-33　グランカーサ南青山2F
COCOOお問合せ　　メール　cocoo.support@137.co.jp
COCOOサポート事務局　　TEL　050-3646-2566

資本金　¥5,000,000　（2021年9月末現在）

サービス導入実績　2022年1月末現在

【緊急時情報伝達システム「5co Voice」（ゴコボイス）】

横浜市金沢区様、東京都足立区様、横浜市青葉区様、横浜市都筑区様、
横浜市南区様、横浜市港北区様、横浜市西区様、横浜市鶴見区様、
横浜市旭区様、横浜市神奈川区様、埼玉県吉川市様、東京都中野区様、
埼玉県上尾市様、栃木県市貝町様、群馬県藤岡市様、群馬県玉村町様など

【学校連絡・情報共有サービス「COCOO」（コクー）】

東京都墨田区小中全校 35 校、横浜市立 17 校、広島県福山市立小中 9 校
静岡県特別支援学校全校/中高一貫校 /県立高等学校 計 28 校、岐阜県瑞浪市小中全校 10 校など
2022年1月現在　全国 223 校（アカウント）　※EdTech2021補助金導入数を含む